

「Adobo!? Nonoka, do you know adobo!? (ノノカ、アドボ知ってるの!?)」

「Yes! My friend's mother is Filipino. She cooked it. (はい! 友達のお母さんがフィリピン人で、作ってくれました)」

「Great! I ate adobo for lunch today. (いいね! 僕は今日のランチにアドボを食べたよ)」

わーおと飛び跳ねたくなる。マリアさん、ありがとう! 「えっと、I also ate taho. (タホも食べました)」

タホというのは、アドボの後に食べた豆腐のスイーツだ。マリアさんが豆腐をレンジでチンして、タピオカ入りの黒蜜をかけてくれた。すっかりした豆腐に黒蜜の濃い甘さがピッタリ。フィリピンでは朝に食べる人が多いんだって。

「Tofu is popular among Japanese people, isn't it? (日本人にも豆腐はホビュラーなんでしょ?)」

「Yes, I like it. (はい、私も好きです)」

マリアさんによると、フィリピンの主食はお米。意外と日本と似てる場所があるのかも。

「あ、Mr. Joshua! (ジョシユア先生!)」  
 レッスン前の雑談はそろそろ切り上げないといけないけれど、一つ知りたいことがあった。

「Where do you live in the Philippines? (先生はフィリピンのどこに住んでいますか?)」

それを訊いたのは、日曜日にマリアさんからフィリピンの地理を教えてもらったからだ。

「この昔話、パンガシナンの人は知ってるかもネ」

ランチの後、私が昔話の本を見せると、マリアさんは「漁師の娘」のページを指さしながらそう言った。

「ばんがしなん?」

「『パンガシナン地方にあるリングエン湾』って書いてある。そこに住んでる人は、この昔話知ってるかも」

私は地理が得意じゃないせいか(英語もだけど)、今までフィリピンの地形にはあまり興味を持っていなかった。

「フィリピンってこんな感じ」

風羽ちゃんスマホでグーグルマップを開いて見せてくれた。台湾の南に位置するフィリピンは縦に細長く、様々な形の島が連なっている。

「フィリピン、七千以上の島があるヨ」

「七千!?!」

マリアさんが指で地図を拡大する。

「パンガシナンはここネ。マニラと同じルソン島」

「あ、マニラは聞いたことあります。えーっと、確か首都?」

「イエス! ワタシは、ミンダナオ島のダバオ出身ネ」

ダバオは自然豊かな都市で、ドリアンが名物なんだそう  
 だ。